

習近平夫人と江沢民の外交に反発を強める胡錦濤青年団派 青年団派は姫鵬飛を強烈に記念して太子党を抑制する (特殊報道)

中国人民解放军総政治部歌舞団のオペラ歌手彭麗媛は習近平夫人である。これは習近平の再婚相手である。前妻は、中共外交官柯平の娘であるが、彼女は外国に行きたいと言って習近平と喧嘩になり、離婚して各自の目標に向かって歩きだすこととなった。「前哨」

1986年、習近平は北京の人の紹介で歌手の彭麗媛と出会い、わずか半年で結婚した。そして1992年、娘の習明澤が生まれた。その後も北京で外交官僚として生活していた習近平だが、1990年代初頭になって習近平夫人は外交を始めた。そのきっかけは、彼女が曾慶準(曾慶紅の弟)と友人であったため、曾慶紅や江沢民と個人的に交流があったからである。

それは鄧小平時代の女優劉曉慶が、鄧小平や李瑞環と個人的に交流があったことと同じである。

1990年代中期、習近平の父親習仲勲は、鄧小平によって中共中央政権の中心から締め出されていた。これは鄧小平と習仲勲が敵対していたのか、あるいは両者並び立つことが出来ない状況にあったものだろう。

習近平は本物の太子党である。父親の習仲勲が1959年に国務院秘書長だった時、名誉回復後に政権を握った鄧小平は習仲勲を広東省第2書記に格下げした。それを前中共総書記の胡耀邦が名誉回復した。それと同時に、文化大革命時代に無実の罪を着せられた人々の名誉も回復された。職務に復帰した習仲勲は、それから胡耀邦を支持し、改革開放を支持し、親しい関係が続いた。

かつての胡耀邦の秘書によれば、習仲勲は広東から北京に戻った後、若い世代を政権中枢に取り立てる提案として、鄧小平の引退を要求した。この言論に激怒した鄧小平は、習仲勲に怨みを抱き続けて、死ぬまで絶縁した。

中共17大会の前に江沢民は、習近平に上海から北京に引っ越すよう命令を出した。この命令は中共中央書記処の書記になることだという意味である。これは胡錦濤の後継者として時期を待つだけを意味する。

習近平は北京に到着して、まず父親習仲勲と仇敵だった鄧小平の和解問題に着手し、鄧小平の息子鄧模方を自宅に招待して、両家の家族がわだかまりを解消する演出を考えた。しかし、鄧模方は出席せず、代わりに末っ子の妹鄧榕とその主人の賀平を派遣した。代理出席を送ったことで、習近平のメンツを立てたのだ。

習近平が北京に到着するのを待ち兼ねていた江沢民は、夫人の彭麗媛を北京にいる自分の使用人たちにすでに紹介していた。その現状を習近平は黙認した。

胡錦濤からは、どこの派閥にも属していないと思われていた習近平であるが、その夫人を江沢民が使用人たちに紹介するという行為に対しては警戒を強めた。

習近平夫人の外交

江沢民は引退した後、上海に豪邸を建設した。それが完成する前に、江沢民夫妻は杭州にしばらく隠遁して、習近平夫人の彭麗媛を通じたコントロールを開始した。これは、上海幫の悪名が全国に轟いていたので、中共統治の継承人を誰にす

るのかを考える時に、中立者でなければならないと思ったからである。

杭州から江沢民が観察していると、習近平は政治的野心を人前では明らかにしないような慎み深さと奥床しさを持っており、夫人からの長期間の影響によって江沢民の派閥に賛成する気持ちも強い。消息筋によれば、習近平は杭州にいる江沢民に格別の心配りをしていたという。

これに満足した江沢民は、腹心の人民解放軍歌手宋祖英や習近平夫人らと杭州で楽しく共同生活をしていた時期もあるという。

1990年代からの江沢民と曾慶紅の勢力は絶大であったが、その当時は習近平も上海幫も無関係の立場にあった。習近平は当時、福建省の地区書記から出世の階段を上っている最中だった。それも、夫人の交友関係の力によってである。

彭麗媛による「夫人外交」の内助の功は絶大で、2002年に習近平は浙江省の省委員会書記に就任した。江沢民にとっての浙江省は、上海の後背地として重要な位置にあたる。これも江沢民が基石を打つように配置したもので、習近平が江沢民のために防衛線を張ることを念頭に置いたものである。

習近平は浙江省に到着後、杭州で家族3人で住んだ。夫人が江沢民との蜜月関係を構築していたため、杭州では江沢民と書道を楽しんだり、詩を作って楽しんだり、宋祖英の公演を鑑賞しに行ったりして楽しんだ。習近平夫人は、いつも江沢民の傍にいた。

江沢民は杭州でしばらく暮らしていたが、この頃が彼の精神状態が最悪だったのである。しかし、その時期に習近平夫妻は彼の傍で格別の配慮を見せたのであった。これには江沢民もつよく感動したのである。

これによって、江沢民は習近平を中共主席に強力に推薦することとなった。

習近平夫人の彭麗媛と曾慶紅弟の曾慶準は文芸幫の関係であり親しいが、習家と鄧家は関係が悪かった原因で、習近平は太子党から孤立させられていた。

その頃に鄧小平の息子鄧樸方は、全国の障害者連合や康華公司を通じて太子党を巨大化させていた。彼はまた、文化大革命の時にビルから飛び降り自殺未遂によって下半身不随となり、車椅子生活を送っている。

彼は太子党勢力の中心となり、上海書記の余正声、張徳江、葉選寧、王軍、曾慶準などが周辺にいた。しかし、習近平だけがいなかった。

習近平夫人は曾慶準と親しく、曾慶準の兄の曾慶紅は江沢民の腹心である。曾慶準は別名を阿留と言い、本来は全国人民大会委員会の運転手をしていた。兄の曾慶紅が権力を握ってから、その正体を隠すように、中共文化部文芸司長に变身した。

その時の広播電台部長の孫家正と、文化部長の劉忠徳はともに江沢民派であり、曾慶準は運転手、文化部、放送部、中央テレビをコントロールできる立場に位置して、中共文芸界の最高権力者になっていた。

曾慶準は、北京の文芸界が外国と交流する時には必ず、「文化部文芸司司長曾慶準」の肩書きでコントロールしているという。

更に重要なことは、曾慶準の絶大な権力は、曾慶紅からのものではなく、直接に江沢民から与えられていることである。江沢民は文芸を好み、歌も詩も好きで、曾慶準が演出する文芸作品は江沢民の好みに合い、1991年に趙安監督による

「抱擁太陽」などは、江沢民は文芸晩会で絶賛したほどである。

曾慶準は江沢民に女優の宋祖英を紹介した。これによって曾慶準が北京で文芸界を支配する源泉となったのである。これは江沢民が彼の言いなりになっている現状を表している。

1990年代に曾慶準が文芸演出した作品は、江沢民は必ず鑑賞したという。

2000年に曾慶準の腹心の趙安の事件が発生して、江沢民と宋祖英との愛人関係が全国的に話題になり、江沢民は怒り狂った。
曾慶準が彭麗媛も江沢民に推薦した。曾慶準の弟の妻郭珊（中央楽団副団長）も文芸界での地位を持っており、90年代から北京文芸界には曾慶準の大きな幫が形成されていた。

曾慶紅も習近平を高く評価しており、彼が上海市委員会書記に就任した時には、わざわざ上海まで挨拶に行ったほどである。

胡錦濤の習近平に対する警戒

2004年に江沢民は止むを得ず、中共中央軍事委員会主席の職を辞した。そしてまた、「家奴」（腹心）の曾慶紅が突然失脚した。

中国觀察の報道によれば、曾慶紅は胡錦濤派となり「家奴」の所属変更があり、上海幫を裏切った形になっているという。2006年には江沢民の腹心陳良宇が逮捕され、江沢民は曾慶紅に対して疑念を抱き、そしてますます習近平を信頼するようになり、中共後継者として一生懸命に推薦するようになったそうだ。江沢民は、上海幫ではない習近平を推薦することについて、李鵬、朱鎔基、李瑞環などの政治的長老を説得できるという。それらは江沢民の方策を支持するはずだと見ている。だから江沢民は17大会前には、胡錦濤と何度も闘争し、中共の支配権を習近平に引き継がせるために戦っている。

月刊前哨の報道によれば、胡錦濤は習近平に対して警戒しているが、それは習近平が江沢民の代理人の可能性が高いからだという。

去年のアメリカの雑誌・時代が選んだ「世界で最も影響力がある100人」の中に、驚くことに胡錦濤も李克強も選ばれていないのに、習近平と王岐山が選ばれていた。このような状況の中、胡錦濤はなお一層習近平を警戒した。また同誌は上海幫が裏で政治的な小細工をしている疑惑を投げ掛けている。

2009年5月、四川省の大地震1周年記念活動で、胡錦濤は李克強だけを同伴して出席した。これによって、習近平はとても苦しい立場になった。

消息筋の話によれば、胡錦濤は習近平の地位を李克強に置き換えようと何度も画策し、習近平の副総理の地位についても、中国科学技術館新館の参観、大亜湾核電駅締結式などの儀式出席に習近平を派遣しながら、青年団派の李克強は国家副主席ランクが出席すべき活動に派遣している。例えば中共革命聖地井岡山への参拝、モンゴル国防部長との接見などの活動である。

これが胡錦濤が習近平を警戒していることの証明になった。

中共17届四中全会後に中共ウオッチャーたちは、習近平は中共中央軍事委員会副主席となるべきだと思わなかった。

実際、習近平は自主的に中共中央軍事委員会副主席になろうとはしないと、胡錦濤に一通の手紙を送っている。

最新の香港鏡報に掲載された文章によれば、習近平は自分で軍事委員会には入らないと言っているという。文章の題名は「習近平未任軍職之謎」であり、おおまかな内容は、「習近平は中共中央で仕事を始めて短期間なので、多くの状況に対しては不案内であり、現在の仕事に全精力を傾注しており、新たな能力を必要とされる仕事については無理である」ということである。

また、こんな風に胡錦濤を持ち上げている。「胡錦濤は中央軍事委員会主席となつて6年経過し、軍隊の各項目の仕事を積極的・有効的に展開し、党の新旧交代も成し遂げ、強固となった党は軍隊に対しての絶対的指導力を発揮し、新しい時代を創造した。軍隊内部においても高承で権威ある仕事を打ち建てた。このように威信を持って物事を成し遂げるのは簡単なことではない。長期間安定した基礎を守り続け、軍隊を強固にし、軍隊に対しての主要な仕事はすでに完成されてい

る。これらについて、変更する必要性はない」。

そして最後に、「中共17届四中全会の討論と研究によって党を強化する建設的課題は重要であり、会議の上で人事配置に関する議題を出せば参加者の精力を分散させてしまうこととなり、会議の質を低下させることになる」と強く主張している。

17大会前には、習近平は自分の考え方に対する意見を党の長老たちに求めた。彼の意見に対しては、胡錦濤、呉邦国、温家宝も賛成した。結局、中共の四中全会は、習近平の軍事委員会への進出を公表していない。

鏡報の報道では、習近平を困らせる要因が、中共18大会前に噴出しているという。人事配置のことで軍内の老人たちから、自分の親族を何とか昇格させてほしいという頼みごとが習近平のところに持ち込まれ、困り切っているらしい。

習近平は、政治的中立性を守りたいからと、自主的に軍事委員会に進出しないと表明した。これは無意識に胡錦濤の権威に挑戦することを避けたものである。

共産党青年団は姫鵬飛100周年を記念し18大会人事配置

明報の2月2日の報道では、中共は北京人民大会堂で姫鵬飛の生誕100周年の記念会を開催し、青年団派出身の政治局常務委員で國務院副総理の李克強が出席した。

10年前に一人息子の姫勝徳の引き起こした遠華事件が原因で、軍事情報を売ったとして江沢民からの命令で死刑が言い渡された時に、姫鵬飛は何度も江沢民に助命嘆願をしたが、江沢民はそれを拒否した。仕方なく、姫鵬飛は自殺した。

中共で自殺した高層の第2位が彼で、第1位は高崗である。

中共の内情分析家によれば、姫勝徳の事件結果を招いた内幕は、国家指導者であった姫鵬飛は江沢民を尊敬していなかったために報復されたものとしている。

姫鵬飛が死んだ後、新華社はたった一つの短い報道をしただけだった。江沢民は追悼会にも出席しなかった。

姫鵬飛の死後1年半が過ぎた2001年10月下旬に、中共中央は姫鵬飛の死亡告知を各省の軍・部の一級党委員会に向けて発表し、「今後は姫鵬飛と関係のある活動は、公開の研究と記念式について禁止する」と伝達した。

中共青年団派は多忙な18大会の人事配置の最中に、江沢民に死ぬまで対抗した姫鵬飛を記念する催しを開いたのか？ この件を分析したアメリカ在住の中国分析家は、「胡錦濤は人事配置について、姫鵬飛の力を借りて、江沢民と太子党の勢力を抑制した」と言った。

李克強は政治局の青年団派を率いて、姫鵬飛100周年式典に出席した。

2月2日の新華社の報道では、姫鵬飛同志の生誕100周年座談会が北京人民大会堂で開催することが発表された。「姫鵬飛同志久經考驗的忠誠的共產主義戰士、無產階級革命家、我国外交戰線的傑出領導人」。今回の会議に出席した3人の政治委員は全部青年団派出身の人物である。新華社と中国政府のネット上に、李克強の講演内容を全部報道した。新華社によれば、青年団派出身の中共中央政治局委員の劉延東は座談会で、「姫鵬飛は公明であつさりした人物で、立場は堅いものである。姫鵬飛同志的一生、是革命的一生、光輝的一生、是為共產主義理想和党的事業奮鬥的一生、是全心全意為人民服務的一生、と言っているのである。また劉延東は、記念姫鵬飛同志、我門要緊密團結在以胡錦濤同志為總書記的党中央周圍……。もう一人、青年団派出身の政治局委員王兆国も座談会に出席した。今回の座談会出席者の最高官員は、中共中央の香港マカオ小組長習近平ではなく、外交とは無関係の副総理李克強である。これが胡錦濤の偶然の配置によるものか、それとも中共高層が変化したのか、観察する値打ちがありそうだ。

中共四中全会前の1ヶ月間に、習近平はドイツの書類展覧会に参加する時に2冊の英文で書かれた江沢民の本をメルケル首相にプレゼントしたり（月刊中国2月号、「中国共産党18大会戦闘開始」を参照）したが、江沢民とメルケル首相との間には何の交流もないので怪しまれている。これは、江沢民と習近平との間が密接であると、海外で自分自身の立場を鮮明にしたことであり、今までの習近平のやり方とは違う。これは江沢民に強制的に命令されたものではないかと憶測されている。

今回、青年団派が姫鵬飛を盛大に記念する目的は、江沢民派を抑制することである。

1999年に姫鵬飛は、北京香山で息子の死刑が執行される前に、江沢民、張万年、遲浩田に対して4回も手紙を出して助命嘆願をした。また薄一波、宋任窮、万里、宋平、谷牧、張愛萍などの老同志に協力を懇願し、息子の死刑を止めさせてほしいと頼んだ。江沢民は手紙を見た後、死刑は1~2年で執行すると言ったために、姫鵬飛は激怒し、「俺と家内は党と国のために70年以上頑張ってきたのに、共産党はなぜ情けをかけようとしないのか。息子を死刑にするならば、俺は中南海で死ぬ」と罵声を浴びせた。

絶望した姫鵬飛は2000年2月8日正午、書斎で遺書を書いた後、紅酒で30粒の睡眠薬を飲んで自殺した。91才だった。

姫鵬飛の追悼会は粗末に行なわれ、江沢民も李鵬も出席せず、朱鎔基が出席した。胡錦濤は簡単な追悼文を読み上げた。中共中央軍事委員会、解放軍四総部、国防部などは花輪も捧げなかった。その時に、胡錦濤から許可をもらって参列した息子の姫勝徳は胡錦濤と握手した。

姫勝徳は父親の追悼会に参列した後、解放軍総参謀部の監視所に拘置された。

8月13日に彼は歯ブラシの柄で腕の動脈を切り、睡眠薬を70粒飲んで自殺を図った。しかし救急搬送されて一命をとりとめた。

彼の夫人許寒氷も江沢民に、姫勝徳は高血圧の持病があるので病院に行かせてほしいと嘆願したが聞き入れられず、2001年9月14日夜に睡眠薬を大量に飲んで自殺を図った。彼女も救急搬送されて一命をとりとめた。

怒り心頭の江沢民は、「軍中敗類、民族敗類、不殺不足以平民憤」と罵った。

姫勝徳事件に関係していた解放軍総参謀部情報部出身の、国防部アメリカ太平洋局長徐俊平大校は2000年12月、アメリカに逃亡した。姫勝徳は2002年に最終判決で無期刑を言い渡された。今では重い心臓病のため、北京の軍事病院で治療中である。

「炎黃春秋」にも、中共18大会前に胡錦濤は人事配置を動かし、姫鵬飛の力を借りて太子党江沢民派を抑制する。中共権力闘争は昔から、生きるか死ぬかの戦いである。今は18大会の人事配置の戦争である。と書かれている。

太子党内部闘争は激烈で、青年団派は人材不足

解放軍の86%は太子党が支配していると言われている。胡錦濤青年団派は、本来は17大会で自分の後継者を定めるつもりでいたが、政治工作幹部出身で人材不足であり、国家の大業を握ることなど難しい。そんな中で、どこへ出しても恥ずかしくない人物は李克強だけなのである。

アメリカの多維月刊の2月8日の報道では、李克強夫人の程虹はアメリカ文学の研究者で、いつかは中国総理夫人になると書かれている。

現在53才の彼女は、河南省鄭州のある幹部の家庭で生まれた。父親は程金瑞、かつて共産党青年団河南省委員会副書記を務めたことがある。母親は劉益清、新華社の記者である。父親は北京の扶貧開発事務室（貧困救済）顧問として派遣さ

れた。これは国の副部級幹部（日本の大臣級）である。

毛沢東の文化大革命の期間中、程虹は農村に下放された。それ以後、北京清華大学で英語を修め、友人の紹介で2才年上の北京大学青年団委員会書記の李克強と結婚した。程虹の父親は、李克強を共産党青年団で出世できるように尽力した。程虹も中国社会科学院で文学博士を授与され、現在では長期にわたって北京経済貿易大学で教師を務めている。

彼女は中国人としてアメリカ自然文学研究の第一人者だと言われている。中国大陸における一番の専門家である。アメリカの自然文学の教典「醒来的森林」「遙遠的房屋」などを翻訳し、「帰荒野」の出版をした。一人娘は、現在アメリカ留学中である。英語が達者な夫人は、将来の総理の有力な助手になれる。

李克強は北京大学の経済学と法学の出身で、日本に留学していた。消息筋の話によれば、80年代後期に日本留学し、岩手県にある小沢一郎の別荘で宿泊していたという。日本語も上手であるとのこと。

李克強以外の青年団派には、胡錦濤の腹心である李源潮と汪洋ぐらいしかいない。完全に人材不足である。

逆に、太子党内部の権力争奪戦は激烈である。四川省委員会書記の薄熙来が重慶で、「唱紅打黒」（人民のために裏社会を打つ）と訴えたが、実際には江沢民時代から政治改革勢力の民間人を打つことであり、中共官僚腐敗に対するデモ・抗議・宗教信仰をする民間人を弾圧することである。これは現在も続いている。

薄熙来が遼寧省委員会書記にいた時に、その黒社会は無茶苦茶であった。その次に彼が移った四川省でも、黒社会は無茶苦茶の好き放題だった。現在では「08憲章」の劉小波を刑務所に閉じこめているのも同じことである。

これは「打黒」ではなく、太子党内部の権力争奪戦なのである。17大会後に江沢民は益々弱くなり、腹心の薄熙来は四川省重慶に下放され、息子の江綿恒の腹心である張春江は囚人になった。

人民解放軍は太子党が86%以上を占めている。解放軍はすでに太子党の天下だと言われている。前中共中央軍事委員会副主席張震の息子張海陽と、前国家主席李先念の娘婿劉亞州は同時に昇格した。空軍副参謀長の何為栄、瀋陽空軍司令の許其亮、海軍政治委員の劉曉江、武装警察大校の王建平、成都軍区軍長の房輝峰、ミサイル部隊第56基地政治委員の張孝忠、など昇格している。

61才の広州軍区司令の章沁生中將は、総参謀部常務副総参謀長に任命された。

2008年の年末にソマリア海域に行った海軍総指揮者の杜景臣少將は、東海艦隊司令に昇格した。成都軍区政治委員の張海洋は、ミサイル部隊政治委員に任命された。父親の張震と同じ大將になったのだ。

昔は鄧小平と江沢民が、参謀長と監軍になったこともある。

日本に対して強硬姿勢の「敢言」と呼ばれる劉亞州大將の父親劉建徳將軍は、かつて劉亞州のいる部隊21軍で副政治委員を務めた。母親の陳于湘は21軍の女性軍官だった。父親は抗日戦争、解放戦争、朝鮮戦争に参加した。劉亞州の体には軍人の血が流れている。軍の中では最も厳しいことを言う。

同じ太子党の薄熙来ら多数の仲間は、彼のことが嫌いである。

胡錦濤の腹心で、太子党の軍の中にいるのは劉曉江だけである。

中共18大会開催前に、権力闘争は益々ひどくなる。中共監視を続けねばならない。—日本華字紙 2010年1月、日本新華僑報ウェブサイトは記事

中国系の蓮舫議員に右翼政治家が差別発言、蓮舫議員、平沼元経産相について紹介した。

元経産相は政府の事業仕分けを批判した延長上で、仕分け人を務めた蓮舫議員について「元々日本人じゃない。キャンペーンガールだった女性が帰化して日本の国会議員になって、事業仕分けでそんなことを言っている。そんな政治でいいのか」などと発言した。

蓮舫議員は台湾人の父と日本人の母を持つハーフで、東京生まれ。青山学院大学法学部を卒業後、グラビアアイドルやニュースキャスターとして活躍した。結婚後、双子を出産したが、長男に琳、長女に翠蘭と中国風の名前をつけたことで知られる。04年に参議院議員に当選した。

平沼元経産相は日本を代表する右翼政治家の一人で、一貫して台湾独立を支持してきたと紹介した。02年には台湾から勲章も贈られた。首相の靖国訪問にも賛成しており、小泉元首相の参拝を高く評価したほか、後任の安倍元首相らにも訪問を求めている。従軍慰安婦問題でも「純粋な商業行為」との発言を繰り返している。また「中国の抗日記念館から不当な写真の撤去を求める国会議員の会」の会長でもある。2010年2月15日、中文導報は記事**新華僑**

中国人議員を日本国会へ送ろう

「華人と国会議事堂の距離はどれほどか」を掲載。

昨年末、「中国城」と呼ばれる東京都池袋で、華人参政支持協会による初の研究会が開催された。昨年9月に結成された同協会のメンバーは多くが新華僑(1980年代以後の来日)で、日本国籍を取得した中国系日本人が永住権取得者だという。「10年、20年を費やそうとも我々の代表を国会議事堂に送り込む」ことを目的に掲げている。

日本経済の低迷と中国経済の好調。こうした状況が続く中、日本企業を買収する中国企業が増えている。日本経済に占める中国と華人企業の役割が大きくなるなか、政治的な保護と自分たちの発言権を得ようとする動きは必然とも言える。

ただし「単一民族国家」日本は外国人参政権問題についてきわめて保守的であり、欧米はおろか韓国よりも閉鎖的なほどだ。民主党の鳩山由紀夫首相はこの問題に積極的な姿勢を示し、昨年の衆院選前には「日本列島は日本人だけのものではない」と発言したほどだ。しかし世論の反発は根強く、外国人参政権は簡単に実現することはない。

華人参政権問題は喫緊の課題ではないものの、ひとたび日程に上がった以上その動きが止まることはないだろう。問題は議論することそれ自体にあり、日本国民の意識の開放を進め、客観的に見て少子高齢化に苦しむ日本の21世紀における長期的発展という国家利益に合致したものと認識を広めることになるだろう

参政権求める新華僑—日本華字紙

中国人留学生が日本企業の就職説明会で人気、積極的な態度が好評—「日本列島は日本人だけのものではない」と新華僑報の報道を中国新聞網が17日付で伝えた。

2010年2月16日、日本で学ぶ中国人留学生などを対象とした就職説明会が東京都の墨田区で行われた。中国留学生の「積極的な態度」が説明会に加わった企業の人事担当者から好評を得ている。

説明会に参加したのは中国やモンゴル、台湾などから日本に留学してきた学生40人余り。

参加者の1人で東京外国語大学の大学院で学ぶ曾(ズン)さんは24歳。

「学校だけでなく、社会に出て仕事をすることも勉強。常に成長したい」と前向きな姿勢を貫いている。

20社余りの企業が説明会に加わったが、ある大手総合商社の人事担当者は「日本の若い世代が失った元気が留学生たちには感じられる」と話す。

ある人事アウトソーシング会社の責任者は、こうした説明会で職を得る学生の割合は約3割程度だとし、留学生たちの積極的な態度が日本の企業から好評だという。—英紙

法と規制で巧みに外資企業を排斥する中国、中国市場撤退を言明する英企業も

2010年2月9日、英紙デイリー・テレグラフによると、中国政府によるサーチエンジンに対する検閲とハッカー攻撃を批判して中国市場撤退言及にまで発展したグーグル問題の後、中国に投資する複数の英国企業が中国の保護貿易主義を批判し始めた。「当局が仕掛けた数え切れない規制や法的要求を満足させるのは不可能で、我々の知的財産も犯されている」と撤退をほのめかす企業も次々と出てきている。

同記事は、金融危機後中国で発動した巨額の景気刺激策の受益者のほとんどは中国の企業だと指摘、外資企業が中国で長年かけてネットワークを築き多額の投資をしたにもかかわらず、景気刺激策で力をつけた中国企業によって中国市場退出の危機に直面させられている、と当局の姿勢を批判した。ある英・技術系企業のCEOは、「当局は規定をつく

ってそれを利用し、我々の顧客が中国企業から購買しなければならないように仕向けている」と自社の顧客が中国企業に流れていることを訴えた。同CEOによると、中国政府は同社の営業活動分野での「認定証」を取得するように求めてきたが、外資企業がそれを取得するのは不可能だという。12日、環球時報が伝えた。同記事はまた、ある英国外交官の談話を引用し、中国に進出している英国保険企業・金融企業は利潤とシェア（が制限されていること）に不満をもっており、今年は中国市場を撤退する企業も出てくると報じた — 広東省

日本人駐在員が忘年会で低俗と批判も—

1月30日、会議室に従業員200人が一同に会しての忘年会が開催された。歌あり踊りありのにぎやかな会となったが、宴もたけなわのころに問題の余興が登場した。40歳前後の日本人幹部4人による余興はスカートをはいてダンスを踊るというもの。それぞれの胸元には男性器を模したアダルトグッズがつけられていた。会場は大盛り上がりだったというが、若い女性従業員の中には手で顔を隠していたり、退席する者もいたという。一部従業員からは低俗だとの批判の声も上がった。

2010年2月11日、南方都市報は広東省深セン市の日系企業の忘年会で、日本人がハレンチな余興を行ったとの記事を掲載した。

日本では忘年会といえば羽目を外すのが普通かもしれないが、中国では事情が異なる。侮辱だと受け取る人もいるだけに、日本人駐在員は注意が必要だろう

解放軍の大「美人コンテスト」

一九四九年以来、中共は女性兵士を募集するという名目で、四川省・河南省・湖北省・湖南省の都市や農村から数十万人の若い女性を集め、新疆ウイグル自治区・青海省・チベット自治区に送り込み、「組織の指図に服従」させて、辺境駐屯軍の小隊長から中隊長以上の幹部軍人の「愛人」とし、多くの悲劇を演じさせた。

今日、中共が募集する女性兵士のレベルはさらに高くなり、学歴は高卒以上、身長は1メートル65センチ以上、器量がよくて愛くるしく、スリーサイズが際立っていて、歌も踊りも上手な女性を求め、ということになっている！或るネットユーザーは、「何が作戦部隊のための女性兵士募集だ。これは明らかに娯楽の道具として将校たちに提供する新式の慰安婦ではないか」と言っている。

「女性兵士募集工作試行規則」

さきごろ、国防部は「女性兵士募集工作試行規則」を公布し、募集対象とする女性は政治的意識・体格・学歴などの基本条件に適合していることのほか、面接試験を実施して応募者の立ち居振る舞い、言語表現、才能技芸などについて専門家による審査をおこなうことを明文で規定している。

何とも不思議ではないか！中華人民共和国国防部というのは何をするとところなのだろうか。内情に通じている人なら誰でも、我が共産党の国防部は元来きわめて虚弱であり、ただ対外的にちょっと言葉を発しているだけの組織であって、対内的には三文の値打ちもないところだということを知っている。その国防部は中南海の西側にほど近い西皇城根街にあり、総参謀部と共同で大きなオフィスビルを構えているが、中央軍事委員会のスピーカーを務めているにすぎず、ふだんは総参謀部の将校たちでさえ眼中に置いていない。解放軍の下層兵士も、軍事委員会や総参謀部のあることは知っていても、ふだん国防部のことを話題にすることはほとんどない。なぜなら、国防部には一人の兵士を管理する力もなければ、一つの分隊を動かす力もないからである。国防部の部長を務めた者のうち何人かは、たとえば彭徳懷や林彪などは、悲惨な末路を辿っている。今回公布された『女性兵士募集工作試行規則』も、中共中央軍事委員会が国防部の名前で天下に公示したものにはすぎない。

歌手から「少将や中将」になった者も

以前は、軍隊が募集した女性兵士というのは次の五種類だった。一つ目は軍隊の文芸工作団および体育工作団に新鮮な空気を提供するための「文化娯楽体育兵」、二つ目は軍隊の病院および軍隊の将校のための看護婦や看護人となる「衛生兵」、三つ目は軍事指揮機関のための電話交換手となる「通信兵」、四つ目は軍隊の高級招待所の従業員や軍事博物館の女性解説員となる「後方勤務兵」、そして五つ目は、特殊な訓練を経て勤務に就く「機密（情報）兵」である。

以前と比べると、現今の解放軍の兵士募集の仕方は政治審査がずいぶん緩められ、たとえば両親の出身階級や香港・台湾や海外との関係などについては問わないようになっている。しかし依然としてかなり厳格であることには変わりがなく、まず本人の政治的立場、つまり中国共産党員か共産主義青年団のどちらかに加入しているかどうかについての審査があり、次に家庭的背景、つまり家族の中に現行犯・指名手配犯・麻薬犯罪者・法輪功学習者などがいないかどうかについての審査があり、そして社会関係、つまり親族の中に反体制活動家・民主化運動家・人権擁護活動家などがいないかどうかについての審査がおこなわれる。

女性兵士の募集については、文芸娯楽体育兵だけは特殊な人材と見られている。人材不足のため、政治審査が従来から比較的ゆるやかだった。文化大革命のときのことを見てみると、地主や富農、資本家階級の家庭出身の女性は、天性の美貌を持ち、なおかつ天性の美声も持って歌や踊りがうまく、地方劇団に気に入られたとしても、政治審査を突破しなければ、放り出されるだけだった。だが、そういう女性であっても、ひとたび軍隊に見初められると、本人の経歴に傷がなければ、地方の同意を必要とせず、また何ら戸籍移動の処理をすることも必要としないまま、一台のジープが迎えに来て文芸工作団のもとへ送られ、軍服を身につけて女性文芸兵となったのである！現今の全軍総政治部歌舞団団長で少将の彭麗媛同志は、中共第五代の後継者・習近平の夫人であるが、文化大革命の後期、良くない階級の家庭出身だったため、歌手としてデビューした当時は、山東省の故郷でさまざまに嫌がらせを受けたり締め出しを食ったりしたが、その歌『希望の田野で』が中国全土で人気を博したことにより、軍隊の文芸工作団に選ばれると、故郷の党組織ももはや彼女の出世の邪魔をすることができなかった。軍隊出身の歌手で有名な人物としては、宋祖英・陳思思・譚晶・張燕らがいる。歌手として成功したことで少将となった宋祖英や中將となった馬玉涛は、野戦部隊の大佐や上級大佐たちを死ぬほど怒らせている。彼らは一生、命が掛かった苦勞続きの軍隊生活を送り、それでも少将になるなど天に登るよりむずかしいことなのである！

文芸兵は美人の巢

解放軍の文芸兵は特殊な隊伍で、八路軍の文芸宣伝隊や文芸工作団から発展してきたものである。抗美援朝（「アメリカに抗し北朝鮮を援助する」という意。一九五〇年十月、朝鮮動乱にさいし中国で繰り広げられた運動）の頃までは、連隊にも師団にも文芸工作隊があった。軍隊の文芸工作団も、軍隊の将校たちが若く美しい妻を選ぶ場所となっていた。陳毅夫人の張茜や許世友夫人の田普などは、みな文芸工作団の団員出身である。林彪とその妻・葉群は、息子・林立果のお妃を選ぶために中国全土をくまなく探したが、最終的に選び出したのは南京軍区歌舞団にいたダンサーの張寧だった。

毛沢東は一九五四年から、北京においては解放軍に三つの総本部と諸兵種を設け、外地においては八大軍区を設置した。そして連隊一級の文芸工作団、師団・軍団二級の文芸工作団を廃止して、優秀な文芸の人材を、総政治部の文芸工作団・空軍政治部文芸工作団・海軍政治部文芸工作団・鉄道兵文芸工作団・第二砲兵部隊文芸工作団および八大軍区の文芸工作団にまとめあげた。その後、これらの文芸工作団はさらに各

種の分団へと分かれていき、たとえば総政治部文芸工作団は総政治部歌舞団・総政治部新劇団・総政治部曲芸団・総政治部雑技団・総政治部京劇団へと分かれたのだった。現在も、各大軍区には依然として歌舞団・雑技団・京劇団などが存在している。

現在おこなわれているような、部隊による女性文芸兵の募集というのは、秘して公表こそしないが、美人コンテストなのである。特に歌舞団員の選抜となると、美しい顔、高い背丈、長い手や脚（脚については、主として膝から下の部分）、たおやかな腰つき、肉付きのよい胸（巨乳は不可）がますます要求されるようになっている。毎年、祝祭日におこなわれる歌や踊りの上演を見てみるとよい。ほとんどの場合、軍隊の歌舞団の女性団員が重要な役割を演じている。誰も彼もが美人ぞろいで、ひとえの上着はいよいよ透けて見え、履いているスカートはいよいよ短く、ビキニの水着にいよいよ近づいている。広州軍区雑技団の「女体変形」という演目は、タイ式の化け物のパフォーマンスに似ており、演じている女性の全身に骨格がないかのようにであり、関節も完全に脱臼していることに驚かされるが、そこにあるのは残忍さだけで美感はまったく窺われない。

衛生兵の悲喜劇

各種の女性兵士のうち、いちばん前途があり、いちばん安全が保障されているのは衛生兵である。この種の女性兵士は、政治審査が特別厳格である（必ず労働者か農民の家庭出身である必要がある）ことのほか、優しい人柄の女性が求められるが、教養は中卒程度でよく、顔や身長などについては基準が比較的ゆるやかである。入隊すると軍隊の医学校に送られ、看護婦としての専門課程を履修する。その後、大多数の者が各級の野戦病院に配属されて勤務に就く。一部の、学業が優秀で人品・容貌とも申し分なく技術の優れている者は大軍区の上級指導者たちの元に送られ、「保健看護婦」となる。「保健看護婦」とは何をする者なのだろうか。日常的に、将校たちに薬を与えたり注射を打ったり、お茶や水を持って来たりし、将校たちが寝る前には体全体にマッサージを施す。そのため、「保健看護婦」は内部の人間からは「愛人看護婦」と揶揄されている。ふだんは軍服を着ているが、将校たちに仕えるときには白くて長いひとえの中国服を身に付ける。文革初期、蕭という名の将軍は批判されたとき、悪びれもせず「自分は命の危険を冒して戦っている人間だ、看護婦や女性文芸工作団員の何人かと関係してきたが、それが何だと言うんだ」と言っている。伝えるところによれば、「保健看護婦」との情交時に腹上死した軍隊の上級指導者も何人かいるという。

一般の軍隊の看護婦はほとんどが前途洋々であり、除隊して出身地に帰ったとしても、軍隊で厳格な専門的訓練を受けた上に優れた技術を身につけているため、各級の病院で仕事を見つけることができる。

後方勤務の女性兵士

女性の後方勤務兵の場合、その顔や身体や性質に対する要求は文芸兵の場合と大差はなく、女性後方勤務兵は文芸兵と比べればほんの少しだけ、天性の歌声あるいは手足の長さという点で見劣りがする程度である。

女性後方勤務兵は入隊後、まず礼儀作法の訓練を受け、試験に合格すると軍隊の高級招待所やホテルや上級指導者の療養所などの機関に配属され、その女性従業員となる。日常は軍服を着て出勤し、特殊任務に就くとき（視察や会議に出かける上級指導者に随行するとき）は平服に着替える。軍隊内部のホテルで接待するのは師団級や軍団級以上的高级将校であるが、女性後方勤務兵が強姦される事件も時に発生する。ふつうの兵士が一般女性を強姦すれば、重ければ銃殺、軽くても懲役十数年に処せられるが、高級将校の場合は生活上の取るに足りない問題として、警告処分を受けるだけである。

最も悲惨なのは女性機密情報兵

ここで言っているのは、軍隊の上級指導者の身边にいて機密文書を伝達したり保存したりする女性機密要員ではない。ここで言う女性機密兵というのは総参謀二部に所属し、いずれも労働者か農民の娘であり、都市の知識分子や幹部の家庭出身者はめったにいない。彼女たちに求められるのは、確かな政治的態度と健康な身体、そして開放的な観念であり、入隊前にボーイフレンドとの性交渉があつて処女でないことが必要である。入隊後はすぐ軍隊に特設された機密学校に送られ、外界とのつながりは郵便受けの代わりとなる暗号だけとなる。機密学校では政治・党史・国際共産主義運動史・愛国主義・民族主義を学び、また生理衛生の授業および二科目以上の外国語の授業を受け、さらには変装術や変声術を学んで、最後には各種の性的技巧をマスターする。そのうちわりあいむずかしいのは、性教育の授業で女性情報兵に羞恥心を捨てさせることである。男女の情報兵たちは教室あるいは体操場で輪を作るように並び、手本となる性愛の演技を見たあと各自が実演して見せるが、そこにはまったくきまり悪そうな素振りはない。実は、この授業のやり方はソ連のKGB（国家保安委員会）から学んだものなのである。

制服組がいちばん手こずる相手こそ、女性情報兵たちの最高の奮闘目標となる。比類のない技術を身に付け、色恋の情に通じ、英語・フランス語・ドイツ語を流暢に話す美貌の若い女性が、一晩のうちに、好色ゆえに用心が疎かになる外国の政府要人・億万長者・台湾や香港の企業家を骨抜きにし、言いなりにしてしまうことができるのをご存知だろうか。男たちが後日、その夜の出来事を否認したらどうするか？彼らはこう言われるのである、現場の録画映像をあなたの政府、あなたの家族に送って見てもらいましょうか、ご自分の名誉や地位、妻子や財産を守りたかったら、中国政府に協力したほうがお互いの利益になりますよ、と。

オーストラリアの元国防相、イギリス・ロンドンの現任の副市長、欧米の多くの政府要人や企業家、台湾国民党の何人かの高官、台湾や香港の企業家などはみな、北京や上海の五つ星ホテルの高級ベッドの上で、夢見心地のうちに手玉に取られた者たちなのである。

女性情報兵たちの行く末は、往々にしてそれほど楽観的なものではない。「性」の戦いで勝利を収め、移民の身分を取得し、その国で結婚して子供を生み、なおかつ「祖国」のために情報活動の任務を続けるというように、組織的・計画的に中国を飛び出していく者もいるが、中国国内に留まり、何らかの情報システムの破壊に遭遇した場合は悲惨である。党や国の極秘情報を守るため、彼女たちは海南島の五指山や、内モンゴル自治区と黒龍江省にまたがる大興安嶺の原始林に護送され、十年あるいは十数年ものあいだ世間と隔絶した生活を送らねばならず、場合によっては一生をそこで過ごすこともある。

「女性兵士方陣」の影響

しかし、たとえそうではあつても、14億の人口を持つ大国・中国で、適齢期の女性が軍隊に入つて兵士となるのは、やはり一種の羨望の的となる出世である。

今回、国防部が打ち出した『女性兵士募集工作試行規則』は、やはり、建国60周年記念の国慶節に天安門広場でおこなわれた大閱兵式のときの「女性兵士方陣」のあの艶美なパフォーマンスに啓発され鼓舞されたものと言われている。あの演目が党や国家の指導者たちの目を楽しませ、気分を爽快にさせたのである。

世間にも、軍隊は女性にも門戸を開くようにという女子大生たちの強い要望が沸き起こっている。仕事が見つからない大学卒業生が全国に1200万人いるという状況の中では、女性兵士となることも確かに生活が保障される選択肢の一つである。

滅亡の前兆

新聞の報道によると、今月に入って全国各地で次々に女性兵士の募集試験がおこなわれているという。北京の女性兵士面接試験会場には、審査小組のメンバーである解放軍の文芸学院や北京映画学院の専門家が控えているほか、取材が開放されたことにより、取材に訪れたメディアの記者の姿もある。面接試験の内容は三つあり、立ち居振る舞い、言語表現、そして才能技芸である。ただし、面接試験を受ける資格があるのは身長・スリーサイズ・手脚の長さが基準に達している者だけである。立ち居振る舞いの面接試験は、舞台の上で歩かせて、立ったときの姿・歩くときの姿・坐ったときの姿・しゃがんだときの姿を見るものである。つまり、立ったときには立ったときの相というものがあり、歩くときには歩くときの相というものがあるわけである。もともとは、仰向けになったときの姿、横向きに寝たときの姿、うつぶせになったときの姿も審査内容に含まれていたが、それは廃止されたのだという。言語表現および才能技芸の審査は同時におこなわれ、スピーチ・朗読・唱歌・舞踊などが含まれている。歌は、民間歌謡・流行歌・京劇・越劇（浙江省の地方劇の一）・黄梅劇（安徽省の地方劇の一）などが歌ってよいとされている。

審査員の一人で、解放軍芸術学院の或る教授は、女性兵士の才能技芸の審査では彼女たちがあがってしまうことがないかどうかを見て、そこから心理的素質や情感的素質を審査すると言っている。

今回、中華人民共和国国防部が何の臆面もなく公文書を出し、全く新しい形式で全国の大中都市から女性兵士を募集するというのだが、どのような女性兵士を募集しようというのだろうか。

今日の中国では政府や警察がマフィアと結託し、数千万の都市住民の家が強制的に撤去され、1億人近い農民の土地が暴力的な手段で収用されている。陳情者は公安や武装警察に逮捕され、したたかに殴打されている。そして、そういう官の横暴ぶりに追いつめられ、生計を断たれ生存の道を断たれた民が決起する事態にまでなっている。中華民族は最も危険な時を迎えているのである！それなのに、軍隊や党では、上から下まで、誰も彼もが貪欲になり不正な手段で金を集め、妻子を海外に移住させ、集めた金で淫欲に浸っている。女性兵士募集という名目で大々的に美人コンテストを開き、自分たちの娯楽に供しようというのである。私たちは、「党や国がまさに滅びるとき妖しい前兆が起こる」という古くからの言葉を肝に銘じる必要があるだろう。

世界でただ一つ「中共摸金部隊」とは

中国觀察の1月6日報道によれば、中国人民解放軍武装警察黄金部隊「摸金」は世界でただ一つの特種任務を持つ工作隊である。

解放軍報12月2日報道では、武装警察黄金部隊の4支隊は内蒙古の錫林郭勒盟地域で、埋蔵量が厚さ100mもの銀、鉛、亜鉛、錫など約8万9千tに及ぶ鉱床を探索・発見したという。

鉱床を発見した4支隊は、中国東北地域で活躍する先進的探索技術の部隊だが、最近探索・発見した鉱床だけで15ヶ所に及んでいる。

1973年、王震によって中国人民解放軍基本建設工程兵黄金指揮部が設立された。それが拡大し、基本建設工程兵第51支隊が誕生し、再編されて第52、53支隊に発展し、それが中国人民解放軍武装警察黄金部隊の前身になった。

この部隊が設立された理由は、黄金産出量の圧倒的不足を受けてのものだった。当初は技術力も未熟だったが、黄金の産出量は順調に拡大した。1950年代に年間6t前後しか産出しなかったものが、60年代には10t、70年代には20tと上昇を続けた。

1984年、人民解放軍が100万人の追加採用を決めた時にある幹部が、それらを黄金部隊にすることを提案した。李鵬は反対だった。そこで1985年1月1日にこれらを武装警察に組み入れることで名称変更し、現在に至る組織になったのである。

この黄金部隊が大活躍し、中共政権としては貴金属類の鉱床発見が加速することになった。80年代には年間産出量が56tに達し、90年代末には170tを超える量となり、21世紀初頭には200tを突破、2009年度の産出量見積りは300tを突破すると見ている。

この産出量は、南アフリカ、アメリカを超えて、世界最大の産出量となる。

中共の軍隊は、国家の資源獲得によって経済活動の重要地位を築き、すでに海外の資源獲得にも乗り出している。これらの工作によって、中共独裁統治政権においては軍隊・政治家・共産党員だけが金持ちになれるシステムが完成している。

人民の窮状は、黄金部隊の活躍によって少しは改善されたのか？

消息筋の話によっても、高級幹部や太子党の人物は大半が会社を経営しており、全員が裕福であるという。これを支えているのが、黄金部隊なのである。

來源：人民武警報 武警黄金部隊在甘肅某地探獲108噸超大型金礦(圖)

(博訊2010年02月09日發表)

歷經10年艱苦奮戰，日前，武警黄金五支隊在甘肅某地探獲一座資源量高達108噸的超大型黄金礦床。這是繼甘肅陽山金礦之後，黄金部隊在西部地區探獲的第二座超百噸金礦。據專家預測，該礦區潛力巨大，隨著勘查工作推進，資源量還將進一步攀升。



中国では<就職難>今年の大学新卒予定者630万人！年末の就職率目標は...
今年の大学新卒者の就職状況も非常に厳しいと予測している。
就職率を70%前後、



世界が羨む高度成長の国で、今年1千万人が職に就けない？学生...

シンガポール チャイナ: 風俗店経営の中国人女性、警察官と性的関係結び取り調べ

2010年2月、シンガポール華字紙・連合早報は、風俗店経営で逮捕された中国人女性・鍾小琴(ジョン・シャオチン)の裁判を報じた。鍾は警察官と性的関係を持ち金を渡すことで、警察の抜き打ち検査日程を入手しようと画策していた。17日、中国新聞網が伝えた。

鍾は05年1月にシンガポールに入国。他人の紹介を経て林建平と知り合い、金を支払って偽装結婚することで居留期間を延長。シンガポール滞在中、マッサージ店で仕事を続けていた。

08年5月に独立し自分の店を構えたが、このマッサージ店は表の顔で、実際には性風俗店。鍾は警察の立ち入り検査の日程を知ろうと、警察官の王添福に近づいた。08年5月から7月にかけて、性的関係を5回結び、7回にわたり計7000シンガポールドル(約46万円)を支払ったという。同年7月、性風俗店の情報を得た警察は抜き打ち検査を実施、鍾を逮捕した。

関係を結んだ王は09年、懲役30カ月の判決を受けた。鍾の弁護人は実質的には有用な情報を得られなかったとして、王よりも軽い刑罰にしよう求めている — 英国

チャイナ: 中国人経営の性風俗店チェーンが増加、法律の抜け穴くぐり

13日、英華字紙・英中時報によると、英国でこのほど性風俗業従事者の人身売買、マネーロンダリング容疑で起訴されていた中国人男性が判決を前にして逃亡し、指名手配となった。

2006年、英国では歓楽街の合法化が協議されたが、社会に間違ったメッセージを与えかねないとして見送られた。当時の政府は隣人の正常な生活を妨げないかぎり、少数の性風俗産業従事者が協力して性風俗店を経営することは合法化される見込みだと主張していた。英国の法律では売買春は違法ではないが、売買春の教唆及び呼び込み業務は違法となっている。

こうした英国の法律の抜け穴を突いて、中国人経営の性風俗店が増えているという。このたび裁判を受けた張磊(ジャン・レイ)もその一人。複数の性風俗店を経営していたが、本人は表に出ず、各店舗の女性が経営しているかのように見せかけていた。

一部に売春を強要されていた女性もいたこともあり、英国当局は性風俗産業従事者の人身売買及びマネーロンダリング容疑で逮捕した。裁判の判決を前にして張は逃亡し、指名手配された。張不在のままで下された判決では懲役4年となっている。

中国工商銀行が一部融資の借り換え停止を発表。新規融資停止は否...

中国最大の銀行である中国工商銀行(ICBC)は27日、急増している信用の伸びを抑制するため、一部のローンについて借り換えを停止したと明らかにした。ロイター通信 2010年 01月 27日
ただ、新規融資を停止する考えはないとしている。

中国政府は金融引き締めスタンスを強めるなか、銀行に対して融資の抑制を求めており、

工商銀行の発表はそれを裏付けるものとなった。

中国企業は一般的に、6カ月物など短期のローン組んで、それを借り換える傾向があり、借り換えが停止されることは、貸出の回収に等しい。

ICBCは「われわれは急いで貸し出しを増やすことはしないし、貸し出しを停止することもしない」としたうえで、

「1月1—20日には、継続中のプロジェクトによる資金需要が集中し、信用の伸びがやや加速したが、前年同期の水準は依然として下回っている」と述べた。さらに「1月最後の10日間には、融資の期日到来や集中的に貸し出されたローンの返済、クレジットカードローンの返済などにより、融資の伸びは鈍化した」と指摘した。

現地メディアは26日、中国の銀行は政策が引き締められる前に貸し出しを実施しようとした結果、1月1—19日の新規融資額が1兆4500億元(2120億ドル)に達したと伝えた。

中国政府は今年の新規融資の伸びについて7兆5000億元を目標としており、銀行に対して、貸し出しを年間を通して均等化するように繰り返し求めている。09年の新規融資は9兆6000億元だった。

一方、27日付の証券時報は、中国当局が国内銀行に対し、1月に実施した融資の一部を回収するよう指示したと伝えた。銀行の新規融資を政府の目標内に収めるため、国内銀行に対する圧力を強めているとみられる。

同紙によると、中国当局は、今月多額の融資を実行した商業銀行に対し、新規融資の停止だけでなく、すでに実行した融資をできる限り早く回収するよう指示した。

1月第1—3週の新規融資は急増したが、今回の措置により、同月の新規融資額は市場予想を下回る見通しという。チャイナ：政府のバブル対策も効果なし！不動産価格の高騰続く—

2010年2月11日、中国国家发展改革委員会と国家统计局は合同で今年1月の全国70都市の不動産価格を発表した。

9.5%高と8か月連続で前年同月比を上回った。中国新聞社が伝えた。

不動産バブルが懸念されている中国。政府は昨年末に一連の規制を実施した。その影響が注目されていたが、不動産価格は1月も大きく上昇した。特に観光開発が過熱する海南省では、海口市で35.1%、三亜市で31.2%と高い伸びを示している。広州市(広東省)、温州市(浙江省)、北京市、銀川市(寧夏回族自治区)、深セン市(広東省)、昆明市(雲南省)、杭州市(浙江省)などでも上昇率は2けたを超えた。

一方で中国指数研究院が先日発表したデータによると、全国主要都市の約90%で契約面積が減少するなど様子見ムードも広がっているという。しかしながら今年に入ってから土地の払い下げに高額の入札が相次いでおり、不動産価格は今後も上昇が続くと予想する者が多い。(焦点：財政赤字を求められる中国、過剰貯蓄めぐる議論活発に)

〔北京 15日 ロイター〕ユーロ圏がギリシャの財政問題で揺れ、格付け会社が米財政赤字の影響を分析するなか、中国は全く逆の問題に直面している。

財政政策があまりに保守的で、長期的な生産性の向上が妨げられており、世界経済の不均衡拡大の一因になっていると批判されているのだ。

中国の財政政策をめぐる以前から、国際通貨基金(IMF)や世銀が、社会保障支出の拡大を通じて国民の予防的な貯蓄を減らし、消費を促す必要があると主張してきた。

しかし、経済協力開発機構(OECD)が今月公表した報告書は、以下のようなかなり直接的な表現で中国に歳出拡大を迫った。「現在の財政刺激策からの出口を見据える上で重要なのは、財政黒字への転換ではない」「中国の財政は極めて良好で、今の巨額の政府支出を恒久的に維持することが十分可能だ」。

OECDは、中国経済が減速期に入った2007年の一般財政収支が、国内総生産(GDP)の5%を超える黒字だったと指摘。

中国はこれまで福祉年金支出や医療支出を急ピッチで増やしてきたかもしれないが、まだ十分とは言えず、「特に教育予算を拡大し、生産性の向上と不平等の解消を図る必要がある」と主張した。

中国政府は、4兆元(5850億ドル)規模の景気対策を実施したが、昨年の財政赤字はGDP比でわずか2.2%。目標としていた3%を割り込んだ。

OECDは、景気対策の終了で中国の内需が鈍れば、同国の経常黒字がさらに増え、欧米との不均衡が一段と拡大するとの危機感を強めている。 <議論が白熱>

中国の貯蓄率はこの10年で急上昇したが、政府の政策がどこまでその原因になったかについては、エコノミストの間で意見が分かれている。

従来、多くのエコノミストは、国内企業が安い融資や労働力を活用して輸出を増やした結果、企業業績が伸び、貯蓄率が上昇したと分析していた。

ただ、このほど1992—2007年の中国の資金循環統計が改定されたこときっかけに、中国の貯蓄をめぐる議論が活発化している。

カリフォルニア大学中国研究所のカーラ・ウィーマー教授は、2008年の中国の貯蓄率が51.4%に達したことについて、人口動態と所得パターンの変化に伴う家計貯蓄の増加が大きな原因だと指摘。

資金循環統計によると、政府貯蓄率も2004年の4.5%から2007年には10.6%に上昇しており、同教授は、歳入の増加が貯蓄や債務の返済に充てられ、社会保障支出に回らなかった、と指摘している。

同教授は中国経済研究季刊に掲載した論文で「中国国民の長期的な利益のためには、政府が公共支出を大幅に増やす必要がある」と主張。「必要とされる歳出拡大規模は巨額で、かなりの景気刺激効果をもたらす可能性がある」と述べた。

スタンダード・チャータード銀行の大中華圏調査担当スティーブン・グリーン氏も同じ結論に達した。

中国の歳入総額は1995年のGDP比25%から2007年に同35%に拡大。

同氏は、1990年代初めの国家財政は不安定で、歳入の拡大は必要だったとした上で、「政府が経済成長の恩恵を享受し、それを支出に回さなかった点に問題がある。これが中国経済の大きな、隠れた不均衡要因だ。中国経済の不均衡と過少消費の分析では、この点を考慮する必要がある」と述べた。

＜慎重な見方も＞ 　ただ、中国の統計の解釈には注意が必要だとの指摘もある。

世銀の北京駐在エコノミスト、ルイス・クイジス氏によると、急増したとされる政府貯蓄は、他の財政データや家計調査・産業調査と整合性がとれない。

UBSのエコノミスト、ジョナサン・アンダーソン氏も、資金循環統計の内訳と、中国で定評のある産業調査の不整合性が特に目立つと指摘している。

両氏とも、企業業績の拡大が貯蓄率上昇の最大の要因との立場だ。

クイジス氏は「あらゆる可能性を除外したくないが、どうも腑に落ちない。中国経済は、資本集約型・産業主導型の成長を遂げてきた。2005年から成長パターンの変化がすでに始まっていたとは思えない」と述べた。

見解の相違はあるものの、中国専門家は、長期的な成長の維持には、政府投資の軸足を実物資産ではなく人的資産に移す必要があるとの認識で一致している。

OCEDは教育予算の拡充を求めたが、IMFの研究報告は、予防的な貯蓄を減らすため、医療制度の整備を優先する必要があると指摘している。

IMFのエコノミスト、スティーブ・バーネット、レイ・ブルックス両氏がまとめた同報告によると、政府が医療支出を1元増やせば、都市部の消費が2元増えるという。

スタンダード・チャータードのグリーン氏は、医療予算と教育予算の双方を増やす必要があると主張。減税や各種手数料の引き下げも効果的だとの見方を示した。

同氏は「今こうした問題に対処することは現実的に難しいが、いずれは対処しなければならない」と指摘。「そうしないと、いずれ

景気が回復し、政府の歳入が回復した場合に、以前の不均衡が再び勢いを増すだけでなく、官僚組織が肥大化し、経済を圧迫するリスクも高まることになる」と述べた。

中国資本による南アジアでの港湾建設、隣国インドに不安広が...

2010年2月15日、米紙ニューヨーク・タイムズは「中国による南アジアの港湾建設で困惑するインド」というタイトルで記事を掲載。現在、中国が南アジア各国で展開する港湾建設事業について隣国インドが大きな不安感を抱いていると伝えた。

パキスタン(ダワダル港)やバングラデシュ(シットウェー港)、ミャンマー(チッタゴン港)で港湾建設事業に取り組み、ネパールでは鉄道建設を予定している中国は、現在スリランカ第2の大都市・ハンバントタで国際港の建設に取り組んでいる。こうした中国の動きに対し危機感をもって見つめているのは、南アジア自由貿易圏(加盟7か国)で中心的役割を担う大国インドだ。インド国家安全委員会のカンワル・シバル顧問は中国の南アジア進出について「あまりにも熱心であり、これらの地域におけるインドの自然影響力を意図的に打ち消そうとしている」と不快感をあらわに。

2004年のスマトラ沖地震で発生した大津波に襲われ壊滅的な被害をこうむったハンバントタ。スリランカ政府はインドや米国をはじめ世界各国に空港や港湾、鉄道の建設などの復興支援を求めたが、好条件を提示したのは中国だけだった。ラジャパクサ大統領によると、隣国インドには最初に支援要請を行ったが断られたという。

英メディアは中国のハンバントタ港建設を「海軍補給基地にするため」と報じたが、中国政府はこれをキッパリと否定。「中国は平和共存五原則に従いスリランカとの友好関係発展を目指している。中国企業による港湾建設は正常な商業行為だ」と反論している **道路・港湾方面へのインフラ建設投資、08年は過去最高—中国**

15日付香港・経済通によると、中国交通運輸部の李盛霖部長はこのほど、08年に道路、水路、港湾の方面に投じられたインフラ建設の投資額が7930億元となり、過去最高を記録したと発表した。

港湾方面をみると、08年に増設工事を行ったバースの数は沿海部が154カ所、河川部が282カ所。河川水路で改修工事を行った距離は943キロメートルとなった。(

投資額の内訳では、道路建設が前年比2.4%増の6645億元、沿海部の港湾建設が同5.5%増の759億元、河川部での港湾建設が同9%増の181億元だった。

李部長によると、08年に増えた道路の総延長は10万キロメートル、新たに修復した道路の総延長は6433キロメートルとなった。08年末時点の高速道路の総延長は6万300キロメートルで、世界2位を維持した。

イラン大統領が中国に新年祝賀メッセージ「我々には共通の敵がい...

中国の立場が注目されているイランの核開発問題について、イランのモッタキ外相が16日にクリントン米國務長官を強く非難する声明を発表したことが中国メディアでも伝えられている。

鳳凰網の記事では、モッタキ外相が「アメリカは真正正銘の軍事独裁者である」と指摘し、中国などの国に圧力をかけてイランへの追加制裁を試みようとしていることを非難した、としている。モッタキ外相はこのほか、クリントン國務長官が先日カタールで行った遊説は何の効果もなく、イランが軍事独裁を行っているとのコメントには何の根拠もないと批判したほか、中国への働きかけについても「台湾問題と引き換えに中国に制裁への同意を迫っている」とし、「アメリカは

エネルギーを独占したが一方、中国はエネルギー保障面におけるエネルギー埋蔵地域の独立を望んでいる。米中間には台湾をはじめとするさまざまな問題があるが、中国は真摯(しんし)に対応するはずだ」と中国への期待を表明している。

鳳凰網では17日、イランのアフマディネジャド大統領が16日に中国に対して春節(旧正月)

のメッセージを発表したことも伝えている。メッセージの中で同大統領は「中国とイランは古代文明国であり、文化も近い。中国の人々と中国政府に特別の祝福を送りたい」と祝辞を述べ、「中国とイランは共通の脅威にさらされている。一部の強権国家は中国が世界的な影響

を持つ大国化することを望んでいない。彼らは何かにつけて理由を探し、中国に圧力を加えようとしている。我々はそのようなやり方に断固反対し、中国を全力で支持する。なぜなら我々には共通のビジョン、信念、利益があり、共通の敵がいるからだ」と中国との友好関係を強調することで、中国への期待の高さをアピールした。

ネット上では、モッタキ外相とアフマディネジャド大統領の声明を歓迎し、支持するコメントが大半を占めており、アメリカに対する反発が強まっていることが伺える。

オバマ大統領が会談を決行、中国はどんな報復措置を... —英メディア

2010年2月18日、英国の複数のメディアは、オバマ米大統領がチベット仏教最高指導者ダライ・ラマ14世と会談したことで、中国側がどのような報復措置を取るのかについて論じた。

ガーディアン紙は、中国側は会談が行われれば報復措置に出ることを強く示唆していたが、実は中国側も両国関係のひずみが制御不能になる危険性を認識していると指摘。米空母「ニミッツ」の香港への寄港を許可したのも、そうした事態を避けた中国側の思惑が働いたためだとした。同紙は、中国が本当に米国に報復したければ、一切の軍事交流を中止し、4月に予定されていた胡錦濤(フー・ジンタオ)国家主席の訪米を延期にするはずだとの見方を示した。

一方、タイムズ紙は、米国がダライ・ラマを支持することは、「02年チベット政策法」で明確に定められているとし、オバマ大統領がダライ・ラマと会談することは、中国がそれに強く反発することと同じように避けられないことだと指摘。その上で、胡主席は今、米国に対し、どの程度の強さの報復措置をとるかについて決断を迫られていると報じた

グーグル攻撃は中国の二つの教育機関からで一つは軍と関係が深い

米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)は18日、

米インターネット検索大手グーグルへのサイバー攻撃をめぐり、グーグルや数十の米企業への一連の攻撃元は、中国の二つの教育機関にあるコンピューターだったと報じた。うち一つは中国人民解放軍と関係が深いという。この問題の調査にかかわる関係者が情報源としている。

報道によると、教育機関の一つは上海交通大で、もう一つは山東省にある職業訓練学校。

同校は、人民解放軍の支援を得て設立され、軍にコンピューター技術者を輩出しているという。調査で得られた証拠から、同校のウクライナ人の教授が受け持つクラスの特定のコンピューターが強く疑われるという。また、このサイバー攻撃は、当初考えられていたより数カ月早い昨年4月から始まったことも判明。企業機密やコンピューターのコード、中国の人権活動家の電子メールを盗む目的で行われたという。

米国側は、通信傍受機関の米国家安全保障局(NSA)などの専門家がこの問題を調査している。

「売国奴」「裏切り者」米国旅行の中国人ツアー団をネットユ...

今年の旧正月には、コンチネンタル航空を始めとする4大航空会社、中国各地の旅行会社11社が協力し、1000人規模の「史上最大の訪米ツアー団」が結成された。さまざまなイベントが開催され、参加者は歓待を受けた。15日には米ニューヨーク市のデパート・メイシーズがサービスカードをプレゼントし、獅子舞などのイベントも挙行了した。

2010年2月17日、解放日報は記事「史上最大の訪米ツアー団＝ネットユーザーから『売国奴』と批判」を掲載した。ネットでは、中国人旅行客がこれほど歓迎されるとは隔世の感があるとの冷静なコメントもある一方で、「売国奴」「裏切り者」などと過激な批判の声も上がっている。米中関係が冷え込む今、わざわざ米国まで出向いて金を落とせば、台湾向け兵器売却やオバマ米大統領とダライ・ラマ14世との会見を支援するようなものだというのが、その理由だ

チャイナ:「中国製」軍服にNO！安全機密にも関わる国辱と非難殺到—

2010年2月10日、豪紙ヘラルドサンは、同国国防省が「制服に中国製の布素材を採用する」と発表したことで、軍関係者らから非難が殺到したことを受けてこれを取り消したと報じた。環球時報の11日付の報道。

9日、豪国防省の報道官が「今後、武装部隊の制服に中国製の布素材を使用する可能性がある」と発表。軍関係者らから「中国製の制服を着て戦場に赴くなど一種の恥辱である」と猛反発を受けた。これは、同省が新たに制服の生産を委託した同国の企業が材料の仕入れ先として中国企業を選定したもので、目的はコスト削減と見られているが、思わぬ波紋を呼んだかたち。これを受けてメーカーの職員ら400人も抗議の退社をちらつかせるだろうとの観測もある。

豪国防協会(Australia Defence Association)のニール・ジェームス常務理事は、「これは国家安全にかかわる問題」と疑問を呈する。生産現場は国防部の監視の下、一定の規格を遵守するべきであり、安全機密の国外流出などはあってはならない問題であるとした。

抗議を受けて国防部では、「問題の中国製素材は我々の求める品質基準を満たさないため、採用は却下された」と発表。豪紙オーストラリアンは、昨年訪中したギレスピー陸軍司令のレポートを引用して「中国はオーストラリアとの軍事関係緊密化を望んでいる」と報じ、今回の生産委託は中国にとって好機だったはずだとしている

チャイナ:化学肥料の過剰使用が深刻 酸化など土壌被害が深刻—中国

1000万トンが流出し環境を汚染—

14日、農業問題の専門家である温鉄軍(ウェン・ティエジュン)氏率いる研究グループと環境保護団体・グリーンピースは共同で報告書「窒素肥料の本当のコスト」を発表した。化学肥料の大量使用が中国の環境汚染を招き、食品の品質にも悪影響を与えているという。15日、21世紀経済報道が伝えた。

中国科学院植物研究所の蔣高明(ジャン・ガオミン)首席研究員も報告書に同意し、中国で有効に利用されている化学肥料はわずか30～40%、残りはムダだと批判した。2005年段階で中国の窒素肥料使用量は3000万トン弱に達した。米国の3倍という龐大な量だという。過剰な窒素肥料は畑の外に流出し、年300億元(約4000億円)もの被害を生み出している。

2010年2月15日、米国営放送局ボイス・オブ・アメリカ(中国語版)によると、中国は改革開放政策から20年で急速な発展を遂げたが、その一方で環境への取り組みが立ち後れていることから、土壌や大気、水質など一連の環境問題が深刻化している。農地の土壌劣化も深刻だ。

窒素肥料の生産には大量の水と電機が必要であり、高エネルギー消費高汚染産業に数えられる。2006年のデータでは窒素肥料産業が消費した天然ガスは全国の18.7%、無煙石炭で22.1%、電力で2.3%に達する。

中国農業大学の張福鎖(ジャン・フースオ)教授の研究グループは1993年から中国各地の土壌調査を続け、化学肥料の使用過多によって農地の土壌に深刻な酸化現象が引き起こされていることをつきとめ、このほどアメリカの科学雑誌に論文を発表した。

例えば被害の深刻な湖南省では土壌が完全に酸性化し、もはや植物や作物が育たなくなっている。アルカリ性土壌だった北部一帯でも、pH値が急激かつ大幅に下降。これは自然現象ではあり得ないスピードで、その原因としては長期的に窒素肥料を使用したためだと張教授は指摘する。土壌のpH値が下降すると植物の根が育ちにくくなり、養分の吸収力が弱まる。虫害も発生し、それを抑制するためにさらに農薬を散布する。するとまた別の被害が発生する、との悪循環に陥る。また、土壌が酸化すると地中のカドミウムや鉛などの重金属が活性化し、現在のところ農作物による人体への被害は証明されていないものの、もしこれらが体内で中毒症状を引き起こせば、腎機能不全や骨粗しょう症、生殖機能異常などを引き起こすことになる。◆中国の環境汚染「どうにも止まらない状態」…政府会議で確認 27日新華社電によると、温家宝首相が主催して同日行われた中国政府の国務院常務会議は、「中国の環境汚染はいまだに、抑制できない状態にある」との認識を確認した。

「中国国内の労働者のほうが劣悪な環境で働いている」～アフリカの中国...

アフリカの人権協会がこのほど、アフリカに進出している中国の中鉄股フェン有限公司に対し、当地の労働者たちは最低限の権利すら保証されず、劣悪な条件で労働に従事させられているとする調査結果を発表した。
これに対し、中鉄股フェン有限公司は否定の声明を発表した。29日、環球網が伝えた。

人権協会の調査によると、中鉄股フェン有限公司は労働者との労働契約を結ばず、労働者を規定の時間を超えて働かせたほか、支払われた報酬も当地の平均水準よりも低いものだった。さらに、任意での解雇や基本的な労働保険もなかったという。

中鉄股フェン有限公司は人権協会の調査報告に対して「正しくない」と反論、調査報告で指摘されたことは中鉄股フェン有限公司とは無関係だとしたほか、駐コンゴ中国大使は人権協会の報告に対し、「なぜ中国企業ばかりが批判されるのか理解できない」と語り、他国の企業にまで調査範囲を拡大すべきだと語った。

記事では、中国はコンゴで道路や鉄道、ダムなどのインフラ建設に対して莫大な貢献を行ってきたが、それでも人権組織の報告も認めなければいけない点はあるとした。

このニュースに対し、中国ネット上では「中国企業の労働者に対する劣悪な待遇は中国国内でも同様だ」、「中国国内の労働者のほうがより劣悪な環境で働いている」といったコメントのほか、外国に行っても恥さらしなことをするなといった批判の声も寄せられている。(

チャイナ：西側に中国を批判する資格はない！「中国の接近を警戒すべき」論にアフリカ各紙が反論――

2009年11月10日、中国紙・環球時報は、第4回「中国・アフリカ協力フォーラム」の開催を受け、西側諸国がアフリカに「中国による植民地化」を警戒するよう求めたことに対し、アフリカ各紙が「西側国家にそのようなことを言う資格はない」と反論したと報じた。

同紙によれば、ケニア紙「Daily Nation」は5日、同国のトゥジュ外相が06年に英紙フィナンシャル・タイムズの取材で、中国との関係について同様の指摘を受けた際、「中国による『大進軍』だと言われてもいい。だが、我々は喜んで受け入れているのだ。世界中のどこにタダで食べられるランチがあるのか」と声を荒げたと報じた。

また、ナイジェリア紙「Daily Trust」は8日、アフリカと中国の協力関係に嫉妬した西側の記者や政治家たちが嫌がらせをしていると報道。かつてアフリカを植民地化した西側諸国に中国を警戒するよう求める資格はない、たとえば日本が説得しに来ても、南京大虐殺を認めず、教科書の記述も変えないような国の言うことなど聞けない、と報じたという。(

これで良いのか？中国人が開いた「日本食レストラン」がブームスペイン★

2010年1月26日、中国のブログサイト・新浪博客に「中国人と和食、得をしたのはどっち？」と題した記事が掲載された。作者はスペイン・バルセロナの大学院で金融を学ぶ女子学生。現地日本食レストランのほとんどは中国人が開いたものだという。

記事によると、バルセロナではチェーン店「WOK」(編集注：中華鍋の意味)系列の日本食レストランが大人気。

寿司や刺身、天ぷらから鉄板焼きまで様々な日本食が手頃な値段で食べ放題とあり、作者が訪れた日曜日は

満席の盛況ぶりだった。「WOK」は日本食を売りにしているが、実際はオーナーのほとんどが中国人。つまり、

スペインでは中国人が作る日本食が「本場の味」として人気を博している。

作者は、中国人が「日本」を看板にしなければ金儲けができない現状を嘆き、スペイン人がこれほどまでに日本食を好む理由を考察した。まずは「文化レベルの高さ」。電化製品からアニメまで、スペイン人は日本が大好き。日本食を食べることは日本文化の一端に触れることにつながる。

また、日本食は栄養バランスやいりどり、新鮮さにこだわっており、味もさっぱりしていてスペイン人の味覚に合っている。地中海沿岸は魚介類が豊富なため、刺身を作るのも問題ない。筆者は、プライドの高いスペイン人がステータスの高い日本食を好むのも当然だと分析した。

筆者はまた、中国人は日本食レストランの経営でかなりの利益を手にする半面、スペインにおける日本食の普及にもかなり貢献していると指摘。だが、日本文化を少しも知らない中国人が見よう見まねでやっているだけであれば、「かえって逆効果になる」とした。筆者は最後に、中国人のこうした手先の器用さを中華料理の再興に役立てて欲しいと訴えている。

——将来の憲政に対する中共の気違いじみた弾圧

劉曉波に下された懲役11年の判決 重苦しいリスト

二〇〇九年、謝長焱には懲役13年、郭泉には懲役10年、王榮清には懲役6年、張起には懲役4年、黃琦には懲役3年という判決が言い渡されたが、この人々の罪名は国家政権顛覆罪ではなく、国家政権顛覆煽動罪だった。

この重苦しいリストに今また一人の名前が加わった。それは懲役11年の判決が下された劉曉波である。十二月二十五日、クリスマスの日の早朝に私たちは家を出たが、強い北風を身にしみて感じ、今日というこの日は劉曉波にとってどのような日になるのだろうかと思い、ちょっと空を見上げた。

私はその日の午前、北京で活躍している名高い役人や教授が何人か出席している或るイベントに参加したのだが、昼の十二時、食事時に少し時間を割いてインターネットに接続し、劉曉波が懲役11年および量刑が満了したあと政治的権利の剥奪2年という重い判決を受けたというニュースを知って私は驚いた。私はすぐ、つぶやき投稿サイトであるTwitterに、「当局が劉曉波博士に重い判決を下したことに抗議する。劉曉波一人がこの苦杯を喫したのではなく、全人民が民主自由を勝ち取るための苦杯である以上、これは全人民が嘗めねばならない」と書き込んだ。当時、そのTwitterには余杰がこう書き込んでいた。「劉曉波氏に懲役11年という重い判決が言い渡されたが、法廷に引き出され判決を受けるべきは劉曉波ではなく中共当局である」

時間は少し遡るが、十二月二十三日、劉曉波が「国家政権顛覆煽動罪」で起訴された事件の一審裁判が開かれた。それから二日、私はこの事件について、その罪状によれば最長何年くらいの判決が下されるのか、また政府は劉曉波のような文化人をどう扱うだろうかと、友人たちと分析をしていた。重くても懲役6年だろうと言う者もいれば、懲役10年だろうと言う者もいた。また、かつて政治犯として懲役8年に処せられ、刑期を満了して出獄した友人Zの分析もそれに近いもので、「当局は劉曉波氏の『犯罪行為は重大』だと指摘しているので、重ければ懲役10年になるかも知れない」と言っていた。そういうわけで、懲役11年という結果は、樂觀視していた人々にとっては予想もできなかったものであり、且つまた受け入れられないものだったのである。

「ちくしょう、ファッショめ！」

話はまた十二月二十五日に戻るが、その日の午後、私は上述のイベントに出席していた副部級の役人であるB氏に直接、劉曉波が懲役11年が言い渡されたことを告げたのだが、B氏は帰りの車に乗り込むとき一言、「ちくしょう、ファッショめ！」と言った。私はその険しい顔を見て、B氏は役人として或いは学者として、人間の良心を持ち続けることのできる人だと思った。B氏が発したその言葉に、私は慰められるような思いがしたのだった。

私はまた、中央党校で教えているZ教授にも、劉曉波に下された判決は重すぎると言うことを言ったが、Z教授は「確かに重すぎますね」と答えた。私が続けてZ氏に「反体制運動家に対する刑罰はどうして年々重くなっていくのでしょうか。劉曉波についての当局の扱いは、これまでの政治犯の場合より厳しいですね」と言うと、この中央党校の教授は、一九七七年にチェコスロバキアの知識人ら241人が署名して発表したアピールである『憲章七七』を引き合いに出して答えてくれたが、その意とするところは、中共当局は『〇八憲章』をその『憲章七七』になぞらえており、実際に劉曉波は中国の将来の憲政の創始者となっているので中共は許すことができず、だから少しも容赦せずに重い判決を下したのだろう、ということだった。

劉曉波は65歳まで監獄に入れられるのか

劉曉波に判決が下された十二月二十五日は、私の気持ちは沈んでいた。この日私は、かつての政治犯で釈放された後ある病院に入院している友人のTのところにも行って判決のニュースを伝えた。するとTは厳しい顔をして物思いに沈んだ。劉曉波は現在

54歳だが、懲役11年ということは65歳まで監獄に入れられるということである。やはりかつての政治犯で、当局は劉曉波に重い刑を科するだろうと予言した前述の友人Zは「残虐、残酷」という言葉を使って当局のやり方を非難していた。

私は英文を読む気はなかったが、それでも『ニューヨークタイムズ』の電子版にアクセスしてみると、トップページに劉曉波が懲役11年に処せられたというニュースがあり、そこには劉曉波夫妻の写真や、判決当日に民衆が警官の目の前で判決に抗議する写真が載っていた。続いて私はTwitterにも接続し、私も知っている『ニューヨークタイムズ』の記者・紀思道氏が「まったく恥知らずだ、北京当局は」と書き込みをしているのを見つけた。

判決当日、劉曉波は妻の劉霞と会うことができた。この日、当局はことのほか温情的だったらしく、劉霞に裁判の傍聴を認めたのである。判決が出て、劉霞が判決書に署名したあと、夫妻には10分間言葉を交わすことが許可された。劉曉波は控訴する意向を示しているが、家に戻った劉霞は声を上げて泣いていた。

劉曉波が被告人陳述として法廷で語ったのは、妻・劉霞の自分に対する愛への感謝の言葉だった。劉曉波がその陳述中に語った言葉「二十年来私を支持し、私に力を与えてくれたのは劉霞の愛である」という言葉を伝え聞いたとき、劉曉波事件に大きな関心を寄せている中国駐在チェコ公使の女性は感動のあまり涙を流した。

憲政を呼びかけた者は法廷に引き出し、自由を求めて戦う者は抑圧し踏みにじる。これこそが中共政府の現実のありさまである。二〇〇九年十二月二十五日……中国の将来の憲政を記念する日はこの日から始まったことを私は忘れまい。当局が法廷に引きずり出して間違いじみた弾圧を加えているのは一人劉曉波だけなのではない、中国の将来の憲政に対しても同様のことをしているのである。

成田空港籠城の中国人権活動家が帰国、幅広い支援に改めて感...

2010年2月12日、成田空港の制限区域で約3か月間、寝泊まりを続けていた中国の人権活動家・馮正虎(フォン・ジョンフー)さんが上海市に到着、自宅に戻った。馮さんは各界の支持と注目とに改めて感謝の意を表した。米ラジオ局・ボイスオブアメリカ中国語サイトが伝えた。

馮さんは昨年6月、日本を訪問したが、その後、中国から帰国を拒否されるようになった。昨年11月、上海の空港で帰国を拒否され日本に連れ戻された後、日本への入国を拒否し成田空港制限区域内で生活を続けていた。

12日午前12時半ごろ上海市浦東国際空港に到着した馮さんは、一般客とは異なる特別通路から入国し、警察の車で自宅まで送られた。その後、自宅に駆けつけた海外メディアの取材に答え、母国への帰国という市民の権利を中国当局が守るよう訴えていた。

成田空港滞在中、馮さんは世界各国の旅行者、香港の民間団体、各国の人権活動家、そして中国のネットユーザーや上海住民などの同情と声援を受けてきた。また民主党の牧野聖修議員も馮さんを訪ねている。ボイスオブアメリカの取材に馮さんは各方面の支持と注目とに改めて感謝の意を表した

【中国】ミサイル発射実験失敗、発射した潜水艦に落下…潜水艦は沈没寸前★

25日付台湾紙自由時報は、中国人民解放軍が数カ月前に黄海(韓国名・西海)の海中で潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)の巨浪2号の発射実験を行ったところ、海面に出てミサイルが正常に点火しないまま海中に落下。ミサイルは発射した海中の潜水艦と衝突し、潜水艦が沈没寸前の状況に陥ったと伝えた。

同紙の記事を引用したマレーシア華字紙・星洲日報によると、巨浪2号は米本土に到達する射程8000キロの性能を備え、ゴルフ級弾道ミサイル潜水艦から発射された。事故当時、ミサイルを発射した潜水艦は、落下した重さ10トン余りのミサイルが直撃し、艦体が大きく破損したが、緊急修理後に自力で帰港し、大規模な修理を受けたという。

中国のポータルサイト大手「新浪網」は、軍事専門家の話として、「中国は潜水艦を離れたミサイルが水面に浮上する際、一定の角度を維持する高難度の技術が不足しており、海中での発射実験は失敗が多い」と指摘した。

日本に5年間潜伏、帰国して北京で逮捕…傷害容疑の中国人

中国の警察当局は9日、2005年7月に傷害事件を起こしたとして手配中の男を逮捕した。男は事件直後に日本に逃亡し、5年間潜伏していたという。中国新聞社が報じた。

事件のきっかけは「立小便」だった。男は天津市内の飲食店でビール数本を飲み、外に出て近くの壁に向かい用を足した。壁は自動車修理工場のもので、経営者が止めようとしたため殴り合いになった。男は携帯電話で友人数人を呼び、改めて自動車修理工場の経営者らを襲って3人にけがを負わせた。

けんか後は、現場から逃走。男は日本入国のビザを持っていたため警察の追及から逃れるため、3日後に日本に渡った。その他の容疑者3人は1年以内に全員が逮捕された。

男が日本で潜伏していることを知った警察当局は、家族や友人を通じて、帰国して出頭するよう説得を続けた。出頭した場合には反省を認められ、処罰が軽くなる可能性があるとの政策的方針も説明したという。男は説得を受け入れ、帰国と警察への出頭を決意した。

男は成田発の航空機に乗り、9日午後8時45分に北京の中国首都空港に到着。警察に出頭して逮捕された。(

中国には「純粋な漢民族」は存在しない！DNA鑑定で明らかに

DNA測定の結果、中国にはすでに純粋な漢民族は存在しないことが分かった。7日、重慶晩報が伝えた。

蘭州大学生命科学学院の謝副教授の話によると、特定の定義は存在しないものの、「漢民族」とは現在の河南省および山西省南部などを含めた「中原(ちゅうげん)」に居住もしくはルーツを持つ人びとを指し、本来は周辺地域に住む人びとと区別するために設けられた概念であると話す。

しかし、中原に居住していた「漢民族」は服役や戦乱からの逃避などさまざまな原因で中原から各地へ移動し、長い時間をかけて周辺の国や民族と融合していったため、現在の中国にはもはや純粋な漢民族は存在しないという。

その一方で、客家(ハッカ)と呼ばれる人びとは言葉や生活習慣、風俗などの面で「漢民族」の文化を継承しており、謝副教授は「現在、客家は少数民族として存在しているが、彼らこそが本物の漢民族と言えるだろう」としている。

このニュースに対し、中国ネット上では、漢民族かどうかは遺伝子によって決まるものではなく、同じ文化背景を持つ人びとを指すべきだなどといったコメントが寄せられていた。(

統計学史上の新記録

十二月十五日、国務院研究室は内部用の資料として、年間の物価上昇率が平均5・1パーセントだったことを公表した。中でも価格上昇率の高かったのは住宅の14パーセント、天然ガスの12パーセント、植物油の6パーセントなどだった。ところで、やはり国務院に属する国家統計局は十二月十二日、年間の物価上昇率を0・6パーセントというように公表した。この数字と国務院研究室による数字は8倍の開きがあり、統計学史上の新記録を打ち立てた。

誘拐された児童は2万人

二〇〇九年に入ってからだけでも、各地で失踪したり誘拐されたりした児童の数はすでに1万9774人に達している。この種の事件の発生件数が多いのは上から広東省・江蘇省・浙江省となっているが、文明都市として名高い深圳市における誘拐された児童数は7200人あまりであり、全国の都市の中でいちばん多い。

とことん金をむしり取る人民政府

さきごろ大中市の民衆は、葬祭業を独占しているとして国家民政部門を糾弾した。一区画の墓地の値段は2万元へと高騰した上、墓地を買うには28種の雑費が必要であり、しかもその値段は一年で50パーセントも上昇した。民衆は「病気になっても入院費が高くて入院できず、死んでも墓地代が高くて葬ってもらえない」と政府を罵っている。